

ドレス

by Ronald Harwood
THE DRESSER

作:ロナルド・ハーウッド

訳:松岡和子

演出:鶴山 仁

CAST

加藤健一

加納幸和

(花柳芝居)

西山水木

佐伯太輔

照屋 実

岡崎加奈

一柳みる

(母)

戦渦で共に戦って生きた演劇人たちの物語





加藤健一 加納幸和 (花組芝居) 西山水木 佐伯太輔 照屋実 岡崎加奈 一柳みる (朝)

見えない脅威によって、劇場が、演劇が、窮地に立たされている世の中。

そして「これはおれの仕事、一生を賭けた仕事なんだ。

おれは役者だ。自分の野心を信じ、その野心の奴隷になるんだ。永遠に…。」

戦渦でそう言い放つ“座長”のセリフの数々が、今まさに加藤健一の半生と重なり合う。

『戦場のピアニスト』の脚本で知られるロナルド・ハーウッドが残した、
いつの時代も演劇人を虜にする最高傑作の幕開き。

ドレッサー

THE DRESSER by Ronald Harwood

作:ロナルド・ハーウッド 訳:松岡和子 演出:鶴山仁

STORY

第二次世界大戦下のイギリス、とある一座が空爆に怯えながらも巡業を続けていた。そんな中、心身ともに疲弊しきった座長(加藤健一)は突然街中で奇行に及ぶ。目も当てられない座長の様子に、その夜の上演を中止しようとする舞台監督のマッジ(一柳みる)と座長夫人(西山水木)。だが長年座長に仕えてきたドレッサー(付き人)のノーマン(加納幸和)だけは座長に宿る演劇への情熱を信じ、一度でも舞台の幕が開かない日があつてはならないと、なんとか上演に向けて孤軍奮闘する。しかし、すっかり憔悴した座長を始め個性豊かな面々に振り回され、上演中もてんやわんやの舞台裏。そしてクライマックス、それぞれが胸に秘めた思いが明かされる…。

STAFF

美術:石井強司
照明:古宮俊昭
音響:秦大介
衣裳:加納豊美
ヘアメイク:馮啓孝
舞台監督:畑崎広和 高崎芳秀
製作:加藤健一事務所
宣伝美術:市川きよあき事務所
宣伝写真:石川純



2021年/第320回 旭川市民劇場4月例会

4月19日(月) 6:30
20日(火) 1:30

会場/旭川市民文化会館大ホール

上演時間
2時間
35分
(休憩15分含む)

入会のご案内	
入会金	2,000円
会費(月)	一般 2,500円
	大学生 1,000円
	中高生 500円
会員になると年6回の演劇を鑑賞できます。詳しくは事務局まで。	

次例会のご案内

6月例会 『松井須磨子』
エコーン公演
出演/栗原小巻 ピアノ/城所潔

6月22日(火) 6:30 旭川市
23日(水) 2:00 公会堂

旭川市民劇場 旭川市3条通8丁目 緑橋ビル1号館2F TEL0166-23-1655